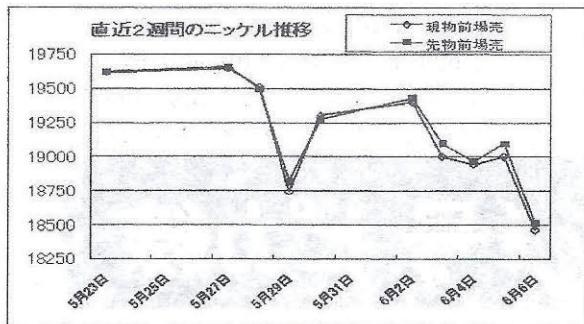


KLTM錫は77.5セント続落 採算値は1,000円安

KLTM錫は77.5セント安の74.278Mドルと続落。USドルは60ドル安の2万3,230ドルで出来高は30トン。Mドル/USドルレート=3.1975とTTSLレート103.56円で換算した採算値は1,000円安の241万1,000円、諸掛込みの採算値も1,000円安の257万1,000円。



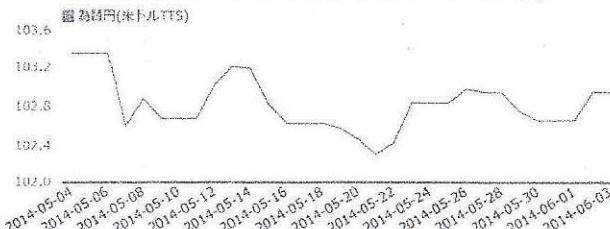
橋本健一郎氏のアルミスクラップ5月レポート及び6月見通し

■概況: 前半は中国の4月の非製造業PMI指数が4か月連続で50を割った事による景気刺激策期待や中国の4月の貿易統計で輸出額が市場予想を上回ったこと、中国貿易黒字が184.5億ドルで予想の139億ドルを上回ったこと、ニッケルがニューカレドニアのゴロニッケルで生産停止が伝えられパニック買い殺到、一気に2万ドルを突き抜け2年ぶりの高値を付けたことを好感し上昇する場面もあったが、4月の中国製造業購買担当者指数が50.4と予想の50.5を下回ったこと、4月の中国HSBCサービス部門PMIは51.4と前月の51.9から低下したこと嫌気し下落、1750ドル(現物後場買戻)と前月最終価格から19ドル上げての前半締めとなつた。

後半はニッケルが一時1万8000ドル割れまで暴落した事、1~3月期のユーロ圏GDPが予測以下だった事、4月の米鉱工業生産指数は市場予想よりも悪化し前月から0.6%低下したこと、第1四半期の米GDPが前期比1%減に下方修正され予想の0.5%減を下回ったことなどマイナス材料もあつたが、4月の米住宅着工件数は前月比13.2%増加の107.2万件で予想の98万件を上回ったこと、ニッケル先物で2万ドル台を回復したことやドル安背景でコモディティーも上昇。6月5日現在LME(現物後場)1805ドルと前半締めから55ドル上昇してのスタートとなつた。

ただ中国青島港保税倉庫で銅2万トン、アルミ8万トンの倉庫証券が複数の金融機関の担保にされている多重債務問題が台頭、現在は鉄鉱石、銅、アルミの出荷停止が行われてるとの報を受け今後の動向に注目される。

■前月の経済指標: 月間のドル/円レート(TTS)は103.20円→102.74円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+3.4%の77万484台。



日本自動車販売協会連合会による自動車販台数(軽除く)は前年比-5.6%の20万6906台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比-3.3%の7万5286戸であった。貿易指標を見ると財務省貿易統計による輸出はアルミ新地金が前年比+236.5%の212トン、2次合金が+78.4%の1431トン、スクラップが-0.5%の1万3710トン。輸入は新地金が前年比+15.5%の15万5907トン、2次合金が+8.2%の9万8206トン、スクラップが-3.2%の794トン、合金スクラップは-1.9%の3733トン。前月の国内指標を見ると日本アルミニウム協会発表の圧延品生産出荷動向では板類・押出生産合計が前年比+9.2%の17万8585トン。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-4.1%の6万8120トンであった。

■見通し: 4月は中国経済減速懸念およびインドネシアのニッケル禁輸措置への対応に一喜一憂した月となつた。

自動車生産は77万484台で前年同月の74万5320台に比べ2万5164台、3.4%増となり8か月連続で前年同月を上回った。乗用車が65万2490台で2万806台、3.3%増となり8か月連続プラス、トラックが10万7563台で5144台、5.0%増となり10か月連続プラス、バスが1万431台で786台、7.0%減となり5か月ぶりマイナス。このうち大型は731台で39台、5.6%増、小型は9700台で825台、7.8%減。4月の国内需要は34万5226台で同5.5%減(うち乗用車29万2826台で同5.1%減、トラック5万1757台で同7.1%減、バス643台で同28.6%減)であった。

輸出は前年同月比5.4%減(実績)、販売は-5.6%の20万6906台、うち乗用車-6.9%、貨物+4.7%、バス-19%であった。4月の住宅着工戸数は7万5286戸(前年同月比3.3%減)、季節調整済年率換算値で90.6戸(前年比1.3%増)で2か月連続マイナ

	2月	3月	4月
生産台数	80万6211台	82万4114台	77万484台
前年比	+7.1%	+14%	+3.4%
3月			
4月			
5月			
販売台数	48万10394台	18万8864台	20万6906台
前年比	+17.8%	-11.4%	-5.6%
2月			
3月			
4月			
新設住宅着工戸数	6万9689戸	6万9411戸	7万5286戸
前年比	+1%	-2.9%	-3.3%

ス。消費マインドの改善等もあって堅調に推移してきたが足下では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が表れている。前年同月比で見ると、持家は3か月連続減(16.1%減、季節調整値の前月比4.0%増)、貸家は14か月連続増(12.0%増、同2.8%増)、分譲住宅は3か月連続減(7.8%減、同5.7%減)、分譲マンションは3か月連続減(16.9%減)となった。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-4.1%の6万8120トン。圧延・押出品生産数は+9.2%の17万8585トンと8か月連続プラス。

圧延に関してみると缶材は3万6111トン(1.8%)。4月のビール系飲料の出荷量は前年同月比-21.0%。これは3月に増税前の駆込み需要で同+16.7%と伸びた反動と見られるがボトル缶(主にコーヒー缶)の増加等により2か月連続プラス。自動車は1万939トン(5.9%)。4月の乗用車販売台数(16万5千台)は3月までの駆込み需要の反動で前年同月比-11.8%となったが(3月の乗用車販売台数は同+12.8%の41万7千台)、トラックの好調等により8か月連続プラス。輸出は1万7246トン(23.2%)。円安効果に加え一部圧延メーカーの海外工場立ち上げに伴う素条輸出の増加により13か月ぶりプラス。

押出に関してみると建設は4万4909トン(7.1%)、内・外装材等が伸びたことから(前年同月比+19.8%)、11か月連続プラス。自動車は1万1000トン(4.9%)。板類と同様の動きであり8か月連続プラスとなった。輸出は新地金が前年比+236.5%の212トン、2次合金が+78.4%の1431トン、スクラップが-0.5%の1万3710トン。割安感のあるスクラップ以外は円の安定を背景に輸出増と見解。輸入は新地金が前年比+15.5%の15万5907トン、2次合金は+8.2%の9万8206トン、スクラップは-3.2%の794トン、合金スクラップは-1.9%の3733トン。前月に続き消費増税前の駆け込み需要の反動も少なく自動車関係を中心には好調な内需から輸入増。

アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比-3.3%と2か月連続減少。持家-16.1%、貸家+2.8%、分譲住宅-5.7%、分譲マンショ

ン-16.9と大幅減少。2か月連続減で消費税前の駆け込み需要も終了確定か、来月の動向に注視したい。自動車は生産が8か月連続上昇の+3.4%となった。但し5月の国内販売台数が前年比-5.6%減だが今のところ販売減にも関わらず生産は堅調、来月以降に注目。為替が前月から引き続き102-103円近辺と円高が継続してからの自動車関係を中心としたアルミに関しては駆け込み需要の反動はあるが慢性的な供給不足から需給は引き締まつたままと見解。

アルミ価格に関しては、今月はインドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策への対応及び中国・青島港の多重債務問題に左右される。

インドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策への対応に関してはインドネシア国内への精錬所の建設が担保されれば即時に減税するとの報道もあり緩和する方に向かうのは確か。ただ今月中にそれらが解決される可能性は低く年内は一喜一憂しそうだ。

中国・青島港の多重債務問題に関しては多かれ少なかれ事実であると認識しているが一旦はセンチメントの悪化やパニックから暴落する可能性はあるものの政府が不良債権の買い取り機関などの策をとると考えており来月以降は落ち着いた相場展開になるのでは。

それらを踏まえたアルミ価格は、上値がインドネシアのニッケル鉱石の禁輸措置政策でのトラブル及び中国・青島港の多重債務問題への道筋が確認された場合に、ニッケルのパニック買いを受けて5月高値のもう一段高の1900ドルを予測、いずれかの場合は1800ドル。下値がニッケル鉱石金融問題での目途や青島多重債務問題での未対応が起これば失望感から5月後半もう一段安値アルミ供給懸念の後退から5月安値の1700ドルを予測。為替TTIは欧州PMIをはじめとする指標が比較的安定している事や米経済指標も堅調なことから欧米共に変化のない場合に下値はドルユーロ高円安から3月安値の104円台。上値は欧米の経済指標が著しく悪化した場合に失望感から102円まで円高が進むと予測。

輸入	2月	3月	4月
新地金	10万6520t	11万9714t	15万6907t
前年比	+2.9%	+25.7%	+15.5%
2次合金	8万2856t	8万8204t	9万8206t
前年比	+44.9%	+45.6%	+8.2%
スクラップ	779t	737t	794t
前年比	+6.5%	+0.96%	-3.2%
合金スクラップ	4273t	3465t	3733t
前年比	+44.2%	+12.8%	-1.9%

輸出	2月	3月	4月
新地金	122t	273t	212t
前年比	+144%	+9.6%	+236.5%
2次合金	1240t	1797t	1431t
前年比	+65.1%	+87.4%	+78.4%
スクラップ	11698t	12518t	13710t
前年比	-33.4%	-9.2%	-0.5%

